

J.LEAGUE NEWS



編集・発行
 社団法人 日本プロサッカーリーグ
 ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

Vol. **166**
 30 Nov. 2009

© J.LEAGUE PHOTOS



2004年以来、5年ぶり2度目のビッグタイトル獲得に歓喜するF東京の選手、スタッフらとスタンドのファン・サポーター

FC東京が5年ぶり2度目の優勝

18歳の米本 (F東京) がMVP賞とニューヒーロー賞のダブル受賞

2009 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝は11月3日、4万4308人の入場者が見守る国立競技場で行われ、FC東京が川崎フロンターレを2-0と破り5年ぶり2度目の優勝を飾った。試合はMF米本拓司、FW平山相太の得点でリードしたF東京が、川崎Fの猛反撃をしのぎきった。タイトルを獲得したF東京には、賞金1億円、Jリーグカップ (チェアマン杯)、ヤマザキナビスコカップ (スポンサー杯)、メダルが授与され、準優勝の川崎Fには賞金5,000万円、Jリーグ楯、メダルが贈られた。最も優勝に貢献した選手に与えられるMVP賞は米本が受賞し、前夜祭で発表されたニューヒーロー賞と合わせ、ダブル受賞に輝いた。(2~3ページに関連記事)

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS



NETWORK PARTNER



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER



J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



J.LEAGUE ALLSTAR SOCCER SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



EQUIPMENT SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER



2009 J.LEAGUE
YAMAZAKI NABISCO CUP
FINAL



先制ゴールを決める米本。右足を思い切りよく振り抜くと、威力のあるボールがGKの手をはじいてゴールネットを揺らした

「我慢」でつかんだ ビッグタイトル

すがすがしい秋空の下、熱烈なファン・サポーターの大声援を受けて、FC東京、川崎フロンターレというライバルチームがビッグタイトルをかけて戦った2009 Jリーグヤマザキナビスコカップ決勝。大会前の劣勢という予想を覆して、粘り強く戦ったF東京が見事に勝利をつかみ、リーグカップウィナーとしてクラブに新たな歴史を書き加えた。

FC東京の城福浩監督は試合後の記者会見で開口一番、「われわれは戦前の予想では苦しいであろうと言われていたが、それは非常にフェアな評価だったと思う。選手のけがの状況や選手層の厚さでは、間違いなく川崎フロンターレに分があった」と謙虚に語った。

試合も川崎Fが優勢に進めた。F東京の陣内での攻防が長く、19分には「一つの狙いだった」（川崎Fの関塚隆監督）というMF谷口博之の後方からの飛び出しによって、決定機をつかった。だが、ゴールから至近距離で狙ったFWジュニーニョのシュートはゴールの枠を越え、絶好の先制機を逃した。

F東京が均衡を破ったのは、「しっかりものにしたかった」（関塚監督）、「失点しなくてよかった」（城福監督）と明暗が分かれたこの場面から3分後のことだった。MF米本拓司がペナルティーエリアの外から思い切りよく放ったミドルシュートが、防ごうとするGK川島永嗣の手をはじいて決まった。

追加点は59分。川崎Fのお株を奪うようなカウンターアタックから、最後はFW平山相太がヘディングでゴール。その後、川崎Fは猛反撃を仕掛けたが、F東京はGK権田修一を中心にしのぎ、ついに得点を許さず、シュート数で10-17、コーナーキック数で4-12と劣勢だった試合を制した。

就任2年目でクラブにビッグタイトルをもたらした城福監督は、「我慢」を勝因の一つに挙げた。相手の攻撃力を念頭に置いて、守備面ではむやみに

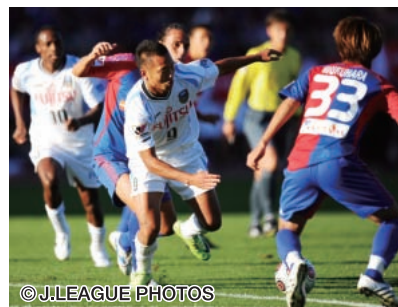
ボールを取りにいて相手にスペースを与えるリスクを冒さないこと、攻撃面では前に急ぎすぎず、自分たちのボール保持時間を長くするという考えによるものだ。MF梶山陽平を中心に監督の狙いを忠実に遂行したイレブン、要所をしっかりと締めて、今季のJ1リーグ戦で2戦2敗だったライバルに雪辱も果たした。

3度目の決勝進出で初優勝を狙った川崎Fは、FW鄭大世のヘディングシュートがゴールのバーにはね返されるなど、終盤の猛攻も及ばなかった。関塚監督は「強引な（攻撃の）形が多くなり、（相手の守備を）切り崩せなかった」と振り返ったが、最後までゴールを狙い続け、手に汗握るシーンを演出した。

MVP賞に輝いたのは、「（賞を）取れるとは思っていなかった」と言う米本。貴重な先制点を見事なシュートでマークし、体を張った守備でも勝利に貢献するなど受賞にふさわしい活躍を披露し、賞金100万円、クリスタルオーナメント、ヤマザキナビスコ製品1年分を手にした。また、18歳でピッチに立った米本は、MVP賞、ニューヒーロー賞とも、歴代最年少の受賞。彼のほかにも、F東京は権田（20歳）、DF椛原健太（20歳）、川崎FはFW登里享平（18歳）が出場し、若い力の台頭を印象づけた決勝でもあった。



得意のヘディングシュートで2点目を決めた平山(左)



川崎Fの強力な攻撃陣は、F東京の堅守の前に無得点



判断の良さが光ったGK権田を中心に、川崎Fの猛攻を防ぐF東京の守り

2009年11月3日 14:09キックオフ 国立競技場

FC東京 2 0 川崎フロンターレ

【得点経過】

22分 1-0 (東) 米本 拓司
59分 2-0 (東) 平山 相太

【入場者数】4万4308人

【主審】村上 伸次
【副審】手塚 洋 / 山崎 裕彦
【第4の審判員】鍋島 将起



ロイヤルボックスでの表彰式を終えてピッチに向かうF東京の選手たち

© J.LEAGUE PHOTOS

城福 浩 監督 (F東京)

「決勝に至るまでも全員で勝ち星を重ねてきたし、今日、ピッチに立てなかった選手、けがあるいはベンチに入れなかった選手の無念さが力になって、(ピッチ上の)選手は戦ってくれた。まさに全員で勝ち取った勝利だった。また、ファン・サポーターの方たちもこの瞬間を待ちわびていたと思う、とにかく腰を引かずに、真っ向から川崎Fと戦って勝利を得たことが自信になる。両クラブのファン・サポーター全員の力で、素晴らしい決勝をやれたことを誇りに思う」



© J.LEAGUE PHOTOS

関塚 隆 監督 (川崎F)

「この大舞台でタイトルに手が届かず残念だし、多くのファン・サポーターに申し訳ない気持ちでいっぱい。先制点を奪われた後の落ち着きというか、しっかりと自分たちのサッカーをいかに90分間できるかというところで、われわれの弱点が出てしまった。最後のところで(相手の守備を)切り崩せなかった。大舞台になるほどこういう心理状態になる。しっかりとチームとしての形をつくっていくかなといけな。F東京には本当におめでとうという気持ちだ」



© J.LEAGUE PHOTOS

「若い選手の台頭を非常にうれしく思う」

鬼武 健二 リーグチェアマン



© J.LEAGUE PHOTOS

「両チームともにアグレッシブなサッカーを期待していたが、結果的に川崎FはF東京の壁にシュートを打つだけのよう展開になってしまった。F東京は川崎Fの良いところを消す作業をうまくやっていた。川崎Fはスペースをもらえず、逆にカウンターで失点してしまった。MVP賞を受賞したF東京の米本選手は、ニューヒーロー賞にふさわしいプレーを今日も見せてくれた。F東京のGK権田選手も素晴らしく、MVP賞は迷った。米本選手はいいところでシュートを打てる。彼のようなしっかりとした若い選手が台頭してきたことは非常にうれしく思う」



© J.LEAGUE PHOTOS

上空約200mから見た満員の国立競技場

ファン・サポーターを楽しませた多彩な催し



© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

ピクトリーロードの写真をバックに記念撮影ができるスポットを設置

フェイスペインティングシールをファン・サポーターに無料サービス

来場者全員にヤマザキナビスコの新品がプレゼントされた



© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

恒例の「ナビスコキッズバトル」も開催。子供たちが挑戦したドリブルゲーム、シュートゲームにスタンドも沸いた

決勝前夜祭&ニューヒーロー賞

決勝の前日は恒例となった前夜祭が行われ、両チームの監督、選手も出席して意気込みを述べるなど、翌日の決戦に向けたムードが大いに高まった。

Jリーグの鬼武健二チェアマンは「両クラブとも日本代表選手を多く抱え、アグレッシブな攻撃スタイルを持つチーム。きっと素晴らしい戦いが繰り広げられると思う」と、翌日の決勝への期待をコメントした。

また、大会を特別協賛するヤマザキナビスコ株式会社の飯島茂彰 代表取締役社長からは「第1回から社団法人日本プロサッカーリーグの皆さまには大変なご尽力をいただき、メディアの方々や関係各位の皆さまにお世話になり、この大会が非常にスムーズに運営されていることを大変ありがたく、感謝を申し上げます」とごあいさつをいただいた。

登壇した両チームを代表して、それぞれの選手も一言。F東京のMF羽生直剛が「自分たちが何が出来るか、自分たちの時間をどれだけつくれるかが、勝利への近道だと思う」と話せば、川崎FのDF伊藤宏樹は「フロンターレとしてまだタイトルを取ったことがないので、明日は強い気持ちを持って戦いたい」と決意を語った。

予選リーグから準決勝まで、最も活躍が顕著だった23歳以下(大会開幕時)の選手が対象とな

るニューヒーロー賞の発表も行われ、F東京のMF米本拓司が受賞。ルーキーでありながらF東京の決勝進出の原動力となった活躍が認められた。米本は「本当にうれしい。支えてくれた家族や周りの人たちに感謝したい。もっと努力して(日本)代表に入れるように頑張りたい」と喜びを表した。



壇上にF東京、川崎Fの監督、選手が勢ぞろいすると、一気に決戦ムードが高まった



© J.LEAGUE PHOTOS

ヤマザキナビスコ株式会社の飯島 代表取締役社長(左)からニューヒーロー賞の表彰を受けた米本